

令和元年度
文化事業に関する評価報告書

令和2年9月

尼 崎 市

I 評価について

1. 趣旨

文化芸術基本法では「地方公共団体は、基本理念にのっとり、文化芸術に関し、国との連携を図りつつ、自主的かつ主体的に、その地域の特性に応じた施策を策定し、及び実施する責務を有する。」と定められています。

こうしたなか、尼崎市では本市の最上位計画にあたる「尼崎市総合計画」の部門計画として策定した尼崎市文化ビジョン（以下「ビジョン」という。）において「本ビジョン推進にあたっては市は責任を持って文化芸術振興の役割を担う。」「文化の担い手である市民が主体的に活動を展開していくため、市は情報提供・相談などのサポートを行う。」と定めており、本市における文化の位置付けや責務を明確に示しております。

このビジョンを着実に推進するためには、文化事業の進行状況を管理し、必要に応じて改善していくことが重要です。そこで、行政評価と行政運営を連動し、文化施策・事業のPDCAサイクルを運用していくため、本市が実施する文化事業の評価を行います。

2. 評価の対象等

ビジョンでは文化を広義に捉えていますが、実効性のある取組を示すため、芸術分野を中心とした狭義の文化を主に対象とし、次の項目に全て該当する事業を評価対象事業とします。

- (1) 市の予算により実施されている事業
- (2) 継続性のある事業
- (3) 狭義の文化（文化芸術基本法第8条から第14条までの項目（出版物、レコードを除く））（下表のとおり）に関連する事業

芸術	文学、音楽、美術、写真、演劇、舞踊
メディア芸術	映画、漫画、アニメーション、コンピュータその他の電子機器等を利用した芸術
伝統芸能	雅楽、能楽、文楽、歌舞伎、組踊その他の我が国古来の伝統的な芸能
芸能	講談、落語、浪曲、漫談、漫才、歌唱その他の芸能
生活文化	茶道、華道、書道、食文化その他の生活に係る文化
国民娯楽	囲碁、将棋その他の国民的娯楽
文化財等	有形及び無形の文化財並びにその保存、修復、防災対策、公開等への支援
地域における文化芸術	各地域における文化芸術の公演、展示、芸術祭等への支援、地域固有の伝統芸能及び民俗芸能（地域の人々によって行われる民俗的な芸能をいう。）

なお、公益財団法人尼崎市文化振興財団（以下、「文化振興財団」という。）はビジョン推進の中核と位置付けているため、市の補助金により実施している事業について評価を行います。

3. 評価の方法

文化の効果を評価するにあたっては、定量的な評価や単年度ごとの指標による判断に留まることのないよう、次の2つの異なる手法により、本市の文化事業がビジョンの取組の柱に沿った内容になっているか定量的視点と定性的視点からあわせて評価を行います。

○本市の取組の柱

- (1) 若い人の夢とチャレンジを応援する
- (2) 育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる
- (3) 市民の芸術体験を支える

① 現地視察を踏まえた評価

ビジョンの取組の3つ柱について、毎年度、それぞれ1事業ずつ選出した3事業を対象として、文化・芸術に造詣の深い専門家等（以下「専門家」という。）による現地視察での意見を踏まえた評価を行う。

② 個別事業に係る評価

対象の全ての事業について、達成年度の目標値及びビジョンの取組の柱に沿った事業展開を実施できたかという2つの項目を組み合わせることで個別事業を評価する。

評価	目標値に対する評価 (定量評価)	取組の柱に沿った事業展開 (定性評価)
A	目標以上の達成ができた。 (100%より大きい)	実施できた。
B	概ね達成できた。 (80%以上100%)	実施できた。
C	概ね達成できた。 (80%以上100%)	実施できなかった。
	達成できていない。 (80%未満)	実施できた。
D	達成できていない。 (80%未満)	実施できなかった。



II 令和元年度事業評価（現地視察を踏まえた評価）

取組の柱1. 若い人の夢とチャレンジを応援する

将来を担っていく若い人の夢を後押しし、飛躍のきっかけとなる機会を提供することで、尼崎が夢とチャレンジを応援するまちであるというメッセージを発信し、そのメッセージが届くことで、新しいもの・ことにチャレンジする人が集まってきます。ビジョンでは取組の柱の最上位に位置づけ、この取組を推進していくこととしております。

【大植英次 中学・高校吹奏楽部 公開レッスン&コンサート】

尼崎市は、昭和34年にドイツのアウクスブルク市と姉妹都市提携を結び、平成21年には提携50周年を記念し青年使節団が、昨年には提携60周年を記念し代表団が両市を訪問しあうなど、現在までさまざまな交流が続いています。「大植英次 中学・高校吹奏楽部 公開レッスン&コンサート」は、ドイツ在住の世界的指揮者である大植英次氏が、尼崎市の市立中学校・高等学校の吹奏楽部の生徒を対象に直接レッスンを行ったのち、本番演奏するコンサートで、音楽の楽しさ、素晴らしさを伝えます。

	<p>目的</p> <p>市立中学校・高等学校の生徒が世界的指揮者である大植氏の指導を受けることで、若い人の芸術体験を支え、若い人の夢とチャレンジを応援する</p>
	<p>実施内容</p> <p>世界的指揮者である大植英次氏による市立中学・高校吹奏楽部を対象とした公開レッスン&コンサートを実施する。</p>
<p>実施期間</p>	<p>年1回</p>
<p>目標</p>	<p>1, 300人（入場者数）</p>
<p>実績</p>	<p>1, 300人</p>
<p>効果</p>	<p>レッスンを受けた子どもたちに世界的指揮者との演奏という「本物」と触れる体験機会を創出し、音楽の楽しさやすばらしさを伝える。</p>

【評価・今後の課題】

専門家による現地視察では、「大植氏の指導やプロの演奏家との演奏には、学びが多いと考えられる」、「尼崎市は吹奏楽が盛んであり、市内吹奏楽部のレベルアップを誘う本事業は文化の振興に寄与することが期待できる」という意見があり、「若い人の夢とチャレンジを応援する」という取組の柱との整合性が高い事業であるという評価を得ました。

本市は吹奏楽が盛んであり、市内には尼崎市吹奏楽団を始めとした多くの吹奏楽のグ

ループが、演奏会やコンクールに向けた練習などさまざまな活動を行っています。中学校、高等学校で吹奏楽部に所属し音楽に親しんだ生徒たちは、その後も進学先や、市内で活動する吹奏楽の団体などでその活動を継続させることにより、文化振興の担い手となることが期待されます。本事業での「世界的指揮者との演奏」という特別な体験は、生徒たちが今後一層音楽活動に励むきっかけとなり、本市の文化振興へ寄与するものと考えられます。

一方事業内容については、2部制で長時間であったことから、進行に改善が必要ではないかという指摘や、市民の参画が感じ取られないなどの指摘がありました。学校関係者の音楽イベントという枠に留まらず、広く市民に足を運んでもらうとともに事業の趣旨を理解いただき、この取り組みを応援していただくためには、時間配分の見直しや、広報・情報発信に更なる工夫が必要です。



また、現在は市立中学校・高等学校の吹奏楽部の生徒を対象として実施していますが、今後更に多くの生徒に芸術に触れる機会を提供できるよう、市内の県立高等学校の生徒も対象とすることを検討し、調整を進めることが期待されます。

取組の柱 2. 育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる

本市には長い歴史とともに育まれてきた歴史資源や長年継承されてきた伝統芸能や祭りが残っています。これらについて学び・楽しみながら、それが守り伝え活かされていくよう、歴史資源等に関連した事業を実施し、歴史・伝統・文化を継承し、発展させていきます。

【尼崎城薪能】

尼崎市では、昭和55年から大物川緑地公園野外能舞台において「尼崎薪能」、富松神社境内において「富松薪能」を開催しており、能楽「船弁慶」ゆかりの地として親しまれています。このように長年親しまれている市の伝統芸能である薪能について、令和元年度は平成31年3月29日に一般公開された尼崎城に野外舞台を特設し、中秋の名月である9月13日に「尼崎城薪能」を開催しました。

	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="691 824 842 969">目的</td> <td data-bbox="842 824 1353 969">能楽を身近でかつ、気軽に鑑賞できる機会を提供することにより、日本の伝統芸能への関心を高める。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="691 969 842 1093">実施内容</td> <td data-bbox="842 969 1353 1093">前年度に一般公開された尼崎城の堀に野外舞台を特設し、薪能を開催する。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="691 1093 842 1137">実施期間</td> <td data-bbox="842 1093 1353 1137">年1回</td> </tr> <tr> <td data-bbox="691 1137 842 1193">目標</td> <td data-bbox="842 1137 1353 1193">1,000人(参加者数)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="691 1193 842 1238">実績</td> <td data-bbox="842 1193 1353 1238">1,200人</td> </tr> <tr> <td data-bbox="691 1238 842 1480">効果</td> <td data-bbox="842 1238 1353 1480">新たに能楽を鑑賞できる機会を創出することで、伝統芸能への関心を高め、市民文化の更なる振興を図る。</td> </tr> </table>	目的	能楽を身近でかつ、気軽に鑑賞できる機会を提供することにより、日本の伝統芸能への関心を高める。	実施内容	前年度に一般公開された尼崎城の堀に野外舞台を特設し、薪能を開催する。	実施期間	年1回	目標	1,000人(参加者数)	実績	1,200人	効果	新たに能楽を鑑賞できる機会を創出することで、伝統芸能への関心を高め、市民文化の更なる振興を図る。
目的	能楽を身近でかつ、気軽に鑑賞できる機会を提供することにより、日本の伝統芸能への関心を高める。												
実施内容	前年度に一般公開された尼崎城の堀に野外舞台を特設し、薪能を開催する。												
実施期間	年1回												
目標	1,000人(参加者数)												
実績	1,200人												
効果	新たに能楽を鑑賞できる機会を創出することで、伝統芸能への関心を高め、市民文化の更なる振興を図る。												
													

【評価・今後の課題】

専門家による現地視察では、「尼崎城の野外舞台というオープンな会場での薪能の開催は、広く市民が伝統芸能に触れる機会を創出できた」、「『初めての能楽』という入門編の資料が多国語で配布されたことや、事前に解説があったことは初心者に興味をもつきっかけを与える取り組みであった」という意見をいただきました。阪神尼崎駅から近く利便性があり、且つ市の新たな観光資源である尼崎城での開催は、これまで実施してきた「尼崎薪能」、「富松薪能」に参加せず、伝統芸能に触れる機会がなかった人々に、その機会を創出する取り組みであったと言えます。

今回の尼崎城薪能の開催は、文化庁の文化芸術振興費補助金の獲得により実現したものです。今後も尼崎城での開催を希望する声も多いことから、継続に向けた検討を進めるとともに、長年親しまれている「尼崎薪能」「富松薪能」を含めた薪能の実施の在り方について、整理を図る必要があります。

取組の柱3. 市民の芸術体験を支える

文化のつくり手・担い手が育っていくためには、市民が芸術に触れる機会を増やす必要があるため、芸術を「特別なもの」としてではなく、日々の暮らしの中で、呼吸するように触れ合い、楽しめるような尼崎市を目指すことで、市民のみならず、市外の多くの人たちを惹きつけ、交流を深めていきます。

※令和元年度は、3月26日～29日に公演実施を予定していた第7回近松賞受賞「馬留徳三郎の一日」について、現地視察及び評価を予定していましたが、本公演は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため延期となったことから、視察及び事業評価が実施できませんでした。

III 個別事業の評価

【評価結果】

令和元年度に実施した評価対象事業は、平成30年度の29事業に比べ2事業増え31事業となりました。個別評価の詳細については別紙のとおりですが、所管課の評価結果については、昨年度と比較してA評価が増えるなど全体的に向上しています。

(令和元年度 個別評価集計)

取組の柱	評価	A	B	C	D	合計
①若い人の夢とチャレンジを応援する		2	3	1	0	6
②育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる		6	3	6	0	15
③市民の芸術体験を支える		1	7	2	0	10
合計		9	13	9	0	31

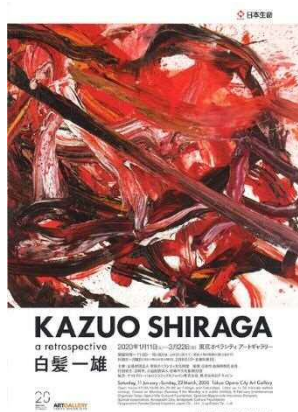
【令和元年度の新たな事業】

令和元年度においては、ビジョンにおける取組の柱「育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる」取組として、新たに「尼崎城薪能」「郷土画家「白髪一雄」発信プロジェクト」「新博物館開館準備事業」の3つの事業を実施しました。

このうち「尼崎城薪能」は、現地視察を踏まえた事業評価で記載したとおりですが、「郷土画家『白髪一雄』発信プロジェクト」は、尼崎市出身でフット・ペインティングにより世界的にも著名な抽象画家・白髪一雄氏の画業や作品について、市が所蔵する作品や資料等の、全国の主要な美術館での展示を働きかけていくものです。今後5年にわたる事業展開を予定する中で、令和元年度は、青森県立美術館と東京オペラシティアートギャラリーの展覧会を実施しました。

また、「新博物館開館準備事業」では、令和2年度に文化財収蔵庫をリニューアルした歴史博物館が開館することから、PRを兼ねたシンポジウムや巡回講座の開催、また開館記念展に向けた準備などに取り組みました。6月に尼崎市総合文化センターで開催したシンポジウム「市民と共にあゆむ博物館」では、博物館等での市民ボランティアとの協働をテーマに近隣施設での事例紹介やパネルディスカッションなどを実施しました。

これらの新たな事業は、「育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる」という文化ビジョンの柱をより充実させるとともに、白髪一雄氏の画業や作品、尼崎城や歴史博物館という市の地域資源を積極的に活用し、尼崎市の文化事業を広く市内外にPRするものであり、今後も引き続き力を入れていく必要があります。



(郷土画家「白髪一雄」発信プロジェクト)

IV 総括評価

【前年度の評価に対する改善の取り組み】

平成30年度に個別評価を行った「尼崎落研選手権」「古代のくらし体験学習事業」「アウトリーチ事業（美術）」の3つの事業については、次のような改善に取り組みました。

「尼崎落研選手権」では、「大会そのものの知名度の向上やレベルアップに向けて、事業そのものの魅力を向上させていくことが期待される、また、現在でも多くの観客に楽しんでもらえている事業だが、観客を増やしていくためには、広報・発信の面での取り組みが大切である」という昨年度の評価結果から、令和元年度は出場者が尼崎市内で活躍でき、より多くの市民に観覧いただく仕組み作りとして、市内小学校で落語特別授業や、ショッピングモールで学生寄席の開催を企画し、その内容を Facebook や YouTube など配信しました。残念ながら、新型コロナウイルス感染症の影響によりショッピングモールでの学生寄席は中止となりましたが、次年度以降も引き続き事業の魅力を高める仕組み作りを検討していく必要があります。

「古代のくらし体験学習事業」では、市内の小学生などが参加する勾玉づくりなどの体験学習の実施にあたり、これまで市民ボランティアとの協働により進めてきた復元住居の茅の葺き替えが終了し、田能資料館の各種事業について、市民ボランティアからより多くの協

力を得て実施しました。令和2年度には開設50周年とともに歴史博物館の分館として新たな出発を迎えるなか、博物館での体験学習は、田能資料館の開館当時から継続して取り組んでいる事業であり、新たな体験メニューの検討など事業内容の充実を図るとともに、歴史博物館と連携した展示の企画や情報発信などに努め、市民の歴史学習を支援できるよう取り組んでいきたいと考えています。

「アウトリーチ事業（美術）」については、積極的な事業展開に向けて、日頃からの学校との連携や働きかけが重要となります。令和元年度は、昨年度に比べて実施回数、参加人数が減少したことから、引き続き学校や先生方との関係づくりに力を入れ、授業の一環としてアウトリーチ事業を実施できる土壌を構築していくことが求められます。また、事業の趣旨を理解してもらうという観点から、対象年齢の引き上げが望まれる中、これまでの学校や子どもを中心としたプログラムだけでなく、学校外、大人向けのプログラムの導入など、事業展開の拡大についても検討するほか、尼崎市総合文化センターでの白髪一雄記念室の運営、令和元年度より取り組む「郷土画家『白髪一雄』発信プロジェクト」と相互に連携して白髪一雄氏の画業や作品のPRに取り組み、相乗効果を高めていくことが期待されます。

全体にかかる課題である市民・利用者のニーズの把握については、文化事業を実施する際に所管課にアンケートの実施を求めており、令和元年度は対象事業のうち、10事業でアンケートを実施しました。また文化振興財団においては、平成29年度から自主事業についての意見を聴取する市民モニター制度を設置していますが、令和元年度も市民モニターと文化振興財団職員が意見交換する懇話会を実施しています。

【今年度の視察事業に対する評価】

今年度専門家に視察いただいた2事業は、文化ビジョンの取組の柱の方向性に沿ったものであるという評価を得ました。

「大植英次 中学・高校吹奏楽部 公開レッスン&コンサート」は、市立中学校・高等学校の生徒が世界的指揮者である大植氏の指導を受けることで、若い人の芸術体験を支え、若い人の夢とチャレンジを応援し、音楽の楽しさやすばらしさを伝えました。

「尼崎城薪能」では、能楽を身近で気軽に鑑賞できる機会を提供することにより、日本の伝統芸能への関心を高揚し、市民文化の振興を図りました。

このように効果が期待できる一方で、それぞれ改善すべき点もあり、専門家からいただいた意見については来年度以降改善を図っていく必要があります。（Ⅱ 令和元年度事業評価（現地視察を踏まえた評価）を参照）

【文化事業評価以外のビジョン推進に資する取組】

ビジョンを着実に推進するためには、文化施策・事業のPDCAサイクルを運用するだけでなく、新たな事業に取り組むための財源の確保や、文化事業の所管課が相互に連携・協力し合い事業を実施することができるような仕組みをつくることが重要です。

・文化振興基金の活用

昨年度に設立した尼崎市文化振興基金は、ふるさと納税や文化団体等から寄附をいただいております。令和元年度は「郷土画家『白髪一雄』発信プロジェクト」及び「大植英次 中学・高校吹奏楽部 公開レッスン&コンサート」の実施に基金を活用しました。令和2年度も引き続き上記の2事業に基金を活用することとしていますが、今後も継続して文化事業を実施できるよう、また市民や事業者の皆さまとともに本市の文化振興に取り組む仕組みを強固なものとするためには、文化振興基金や基金を活用して実施する事業について更なる周知が必要であり、効果的なPRの検討や実施が必要であると考えています。

・文化ビジョン推進庁内会議の運営

文化事業の所管課等で構成する文化ビジョン推進庁内会議については、昨年度に実施した評価結果の共有だけでなく、文化事業の所管課相互の連携・協力を図ることを目的として、各課の文化事業の紹介や情報交換を行いました。

・文化振興財団との連携

文化振興財団は、本市の文化の向上に寄与することを目的に設立され、これまでも専門的な知識とノウハウを活用し、本市の文化拠点施設として、本市から移管を受けた文化振興事業を含め文化芸術の鑑賞、体験する機会の提供などを行ってきました。

ビジョンでは、文化振興財団を本市文化の推進の中核と位置付け、多様な主体のネットワークの拠点としての役割を果たすような体制づくりに取り組むとしており、ビジョンで定めた文化振興財団の役割を実施していくには、文化振興財団は自発性・創造性を発揮し、特色ある文化芸術活動を積極的に展開するとともに、他の文化芸術団体や教育、福祉、観光等の分野などとも積極的に連携・協力しながら、本市文化の振興に貢献することが求められます。こうしたことから、今後は文化芸術に関する中心的役割や、市民の文化芸術活動への助言や協力、文化芸術活動を担う人材の育成などの文化振興財団の機能を高めていく必要があります。

【今後の改善に向けて（全体を通して）】

令和元年度の所管課による事業評価では、昨年度に引き続き「広報の開拓、周知の方法」など広報についての課題や、「出演者、参加者、実行委員会の高齢化」「若い世代など新たな参加者の獲得」など、事業の長期継続等による参加者等の高齢化・若い世代の取り込みが多くの事業に共通した課題となっています。

新たな参加者を獲得するために重要となるのが広報・情報発信であり、若い世代へはSNSなどの若い世代が触れるメディアを活用していくことで効果的なアプローチが見込まれますが、発信した情報に興味を持ってもらえるよう、その内容も十分に検討する必要があります。庁内でも広報課が研修を実施するなど、市を挙げて情報発信力の強化に取り組むなか、文化事業の所管課においてもこのような研修を活用し、情報発信力を高めていくことが求められます。

また情報発信だけではなく、実施する文化芸術体験、事業内容についても、新たな参加者の獲得に向けたものとするのが重要です。地域に近い市内の様々な施設に出向いて事業を実施するなど、参加できる機会を拡大することや、ワークショップを実施し、創作・ものづくりの楽しさを実感する場を提供するなど、多様な人々のニーズに合った事業の企画立案が求められます。

一方、昨年度の終わりごろから流行している新型コロナウイルス感染症により、本市の文化事業の展開にも大きな影響が出ています。緊急事態宣言の発令により、4月、5月は生涯学習プラザなどの公共施設や、尼崎市総合文化センターの貸館の利用を停止することとなり、この時期に予定していた文化事業の多くは中止又は延期となりました。6月以降は施設の利用を再開しましたが、今後の文化事業の実施については、感染拡大を避けるために規模を縮小するなど、事業の見直しや内容の変更を行わざるを得ません。流行の収束には時間を要すると見込まれており、その間、感染防止対策を徹底した上で文化事業の実施に取り組む必要がありますが、コロナ禍という世の中が息苦しい状況であるからこそ、人々の心に潤いを与えるために、そして文化の取り組みを絶やさないためにも、市や文化振興財団は文化事業の展開に積極的に取り組むことが求められます。市、文化振興財団ともに、5月より新たに Web 上での文化コンテンツの情報発信を始めており、今後も新型コロナウイルス感染症との共存を見据え、コンテンツの充実や、コロナ禍においてどのように文化振興を推進していくのかといった、長期的な視点での文化事業の企画立案が期待されます。

変化する状況の中でもできることに取り組み、文化芸術に触れる機会を提供し、ビジョンを推進していくとともに、今後においてもこの事業評価を活用して、継続的な事業の改善・質の向上に努めていきます。

以 上

令和元年度文化関連事業個別評価表

事業名称	課名	取組の柱	事業概要					経費		評価指標			実績			実施に当たり工夫したこと					所管課評価		アンケート					
			事業開始年度	目的	実施内容	対象世代(傾向)	実施期間	実施回数(回)	参加人数(人)	R1事業費(単位:千円)	事業に係る人件費(単位:千円)	指標名	単位	目標	達成年度	H29	H30	R1	財源獲得の努力	広報	協働	改善点等に対する取組		評価	評価の理由	課題	今後の方向性	満足と答えた人の割合
1	尼崎落研選手権	文化振興担当	若い人の夢とチャレンジを応援する 市民の芸術体験を支える	平成27年度	地域資源である「落語」を本市の魅力として発信するとともに、落語を発表する場を提供して若い人のチャレンジを応援する。	「お笑い」落語」を本市の魅力として発信するとともに、落語を発表する場を提供して若い人のチャレンジを応援する。	大学生(専門学校、高等専、大学院含む)	12月7日	1	11人	610	1,723	出場校数	校	14	R4	13	11	11	-	・市報 ・市HP ・あまらぶFB ・新聞 ・チラシ ・ポスター	-	尼崎市内で活躍のできる仕組み作りとして、市内小学校で落語特別授業の実施やショッピングモールで学生客席の開催を予定。また、その内容をネット配信することにも取り組んだ。しかしながらコロナウイルスの影響でショッピングモールでの学生客席は中止となった。	B	参加校、参加者ともに昨年から増加したが、九州、関東等広域から初出場校が複数参加し、事業の周知の結果が出ている。	初出場校が多かったにも関わらず、出場校数自体は増加していないため継続的に出場してもらうための工夫が必要である。	今年度実施を予定していたコースメールでの学生客席のような形で、市内広域で学生の活躍の場を作ると同時に、落語のまち尼崎を周知していく。	91%
2	あまらぶアートラボ運営事業	文化振興担当	若い人の夢とチャレンジを応援する 市民の芸術体験を支える	平成27年度	若手アーティストの発表・創作の場として活用することで、若い人の夢やチャレンジを通して、子どもたちを始めとする市民が芸術に気軽に触れること。	若手アーティストによる展覧会やワークショップを開催する。	全世代	通年	展覧会5回 WS20回 トークイベント4回 その他イベント3回	11,079	9,670	4,308	入場者数	人	3,300	R4	3,133	2,780	2,666	-	・市報 ・市HP ・あまらぶFB ・プレスリリース ・A-Lab HP ・A-Labインスタグラム ・チラシ ・ポスター ・Twitter ・YouTube ・ベトナムニュース、CM	-	市民が芸術に気軽に触れることができる場所としての周知と、市内でのA-Labの周知を推進し、ワークショップを実施した。	B	ワークショップの開催が増えたことにより、子どもたちをはじめとする市民が芸術に触れる機会を増やすことができた。	様々な媒体を用いて展覧会などの告知をしているが、市内でのA-Labの周知にあまり繋がっていない。	若手アーティストの発表・創作の場として活用することで、若い人の夢やチャレンジを通して、子どもたちを始めとする市民が芸術に触れる機会を増やすことにより、A-Labの周知のために応募ワークショップなどを引き続き行う。	87%
3	ティーンズサポートチケットPR事業	文化振興担当	市民の芸術体験を支える 若い人の夢とチャレンジを応援する	平成25年度	尼崎市総合文化センターとピッコロシアターで開催される舞台公演などを10代の皆さんに企画に提供し、本物の音楽や舞台などの芸術に触れる機会をつくる。	1公演ごとに10席限定で500円のチケット販売を行う事業をPRする。	13~19歳	5月24日~9月29日	29(新型コロナウイルス中止の7公演を除く)	107(中止公演を除く)	129	1,096	応募者数	人	200	R4	125	67	107	-	・市報 ・市HP ・あまらぶFB ・チラシ	-	応募状況により課FBで各公演個別に広報を行った	B	若者に人気のミュージカル公演を提供することができ、応募者は増加した。	引き続き、様々な媒体を利用して広報を実施する。今年度は予期せぬ新型コロナウイルス拡大防止による公演中止が相次ぎ、残念ながら事業を完全な形で終了することが不可能となった。	若者が劇場、コンサートホール等に直接足を運び、本物の芸術文化に触れる機会を得るため、引き続き広報を重ねる。	75%
4	文化未来奨励賞	文化振興担当	若い人の夢とチャレンジを応援する	平成30年度	芸術性の高い優秀な作品などを創作し、全国規模の活動を展開しようとしている若手芸術家を表彰し、本物の音楽や舞台などの芸術に触れる機会を持つよう支援を行います。	芸術性の高い優秀な作品などを創作し、全国規模の活動を展開しようとしている若手芸術家を表彰し、本物の音楽や舞台などの芸術に触れる機会を持つよう支援を行う。	40歳以下	募集期間7月16日~8月30日 表彰式12月17日	1回	14人	1,205	2,350	応募者数	人	25	R4	-	19	14	-	・あまらぶFB ・プレスリリース ・チラシ ・ポスター ・Twitter	-	応募者数が目標値に届かなかった	C	応募者数が目標値に届かなかった	より多く応募いただけようように、広くチャレンジを応援していく	文化未来奨励賞の受賞者による発表を通じて、市内外に広く周知を図っていく	-
5	公開レッスン・コンサート	文化振興担当	若い人の夢とチャレンジを応援する	平成30年度 ※平成29年度は共催	市立中学校・高等学校の生徒が世界的指揮者である大槌氏の指導を受けることで、若い人の芸術体験を支え、若い人の夢とチャレンジを応援する	市立中学校・高等学校の生徒が世界的指揮者である大槌氏の指導を受けることで、若い人の芸術体験を支え、若い人の夢とチャレンジを応援する。	中・高生	9月21日	年1回	1300人	1,000	1,184	入場者数	人	1,300	R4	-	1,100	1,300	-	一般財団法人山岡記念財団より文化振興奨励金 ・あまらぶFB ・チラシ ・ポスター ・Twitter	-	中学・高校の先生によって参加校以外の学校にもチラシを配布するなど案内してもらった	A	目標とする入場者数を達成した。	吹奏楽連盟での告知もあり、団体で鑑賞に来る市内の学校にもチラシを配布するなど案内してもらった。	より多くの生徒に本物の芸術に触れる機会を提供するため、市内の吹奏楽部の生徒とも連携を図っていく	88%
-	近松賞	文化振興担当	若い人の夢とチャレンジを応援する 市民の芸術体験を支える	平成13年度	近松の功績を顕彰するとともに新たな演劇作品の発表、次代の演劇界を担う優秀な劇作家の育成を目的に実施する。	戯曲を募集し、審査を通過した作品を対象に選考会を実施し、大賞を決定する。また、大賞作品については、準備期間を設けて上演する。	全世代	3月26日~28日の実施を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため延期となった	0回(延期)	0人(延期)	5,600	2,762	参加者数	人	1,500	R1	-	-	-	-	文化庁文化芸術振興費を寄附した分を市予算に充当 ・あまらぶFB ・プレスリリース ・記者発表 ・チラシ ・ポスター ・Twitter	-	-	-	-	-	-	-
6	白髪一雄記念室	文化特命担当(総文補助)	育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	平成25年度	尼崎市出身であり世界的に評価された抽象画家「白髪一雄」の作品を展示し、功績を紹介する。	①第13回展示「創造の心 教育の心」 ②第14回展示「絵の道 仏の道」	全世代	①4月10日~9月8日 ②10月1日~3月15日	年2回	3,574 ①1,507 ②2,067	9,165	-	入場者数	人	3,468	R4	3,341	3,708	3,574	-	・市報 ・財団HP ・新聞 ・チラシ	-	他の展示やホールへの展示に比べ、本場の美術館に展示された本場の展示に立ち寄っていただくための工夫を自主事業や賞助成の取組に取り組んだ。	B	美術展やホール事業の来場者に記念室への来場を積極的に促すことにより、一定の効果が見られた。また、展示のテーマに関連する「聲明コンサート」を来場し好評であった。ファン層を広げる取り組みとしては、大学との連携事業により、白髪一雄ゆかりの「まちあるきマップ」を作成し、郷土ゆかりの画家として紹介してもらえよう工夫した。	より積極的に記念室のPRとキャラクターワークやコラボ企画を実施し、白髪一雄作品を身近に感じ、作品の魅力を感じてもらおうとすることができている。	ホームページをはじめ、その他広報活動を積極的に行うとともに、家族単位で鑑賞してもらう「親子鑑賞ツアー」をモニターを増やす方策を検討していく。	-

令和元年度文化関連事業個別評価表

事業名称	課名	取組の柱	事業概要							経費		評価指標			実績			実施に当たり工夫したこと					所管課評価		アンケート			
			事業開始年度	目的	実施内容	対象世代(層向け)	実施期間	実施回数(回)	参加人数(人)	R1事業費(単位:千円)	事業に係る人件費(単位:千円)	指標名	単位	目標	達成年度	H29	H30	R1	財源獲得の努力	広報	協働	改善点等に対する取組	評価	評価の理由		課題	今後の方向性	満足と答えた人の割合
7	郷土画家「白髪一雄」発信プロジェクト	文化振興担当	育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	平成31年度	本市の出身でフット・ペインティングにより世界的にも有名な加東画家「白髪一雄」の言葉や作品を本市の誇るべき地域資源としてその魅力を市民、国内外の人々にPRする	市が所蔵してきた作品や資料等を活用し、全国の主要な美術館での展示を働きかけ、平成31年度は、青森県立美術館で開催する他、東京オペラシティアートギャラリーの展覧会に協力。	全世代	①青森: 9月13日～12月15日 ②東京: 令和2年1月11日～2月26日	年2回	3,142 ①32,896 ②8,646	2,986	1,925	来館者数(3年合計)	人	18,000	R3	-	-	31,142	文化振興基金事業	・市報 ・あまらぶFB ・プレスリリース ・チラシ ・ポスター ・Twitter	-	-	A	東京オペラシティでの展覧会は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため会期中で終了したものの、青森県立美術館での展覧会では22,896人、東京オペラシティでの展覧会では8,246人が来館し多くの人に白髪一雄氏の作品を鑑賞してもらった。白髪氏の作品を通して、本市にゆかりの深い人物として全国にプロモーションできた。	全国の美術館で展示してもらう積極性に呼びかける。	海外でも評価が高く本市とゆかりの深い白髪氏の作品を全国の美術館で展覧会を開催することにより本市の魅力をプロモーションしている。	-
8	美術展事業(補助対象の自主事業)	文化特命担当(総文補助)	市民の芸術体験を支える	昭和49年度	優れた芸術を紹介することにより、市民が芸術文化に対する意識を高め、生活に親いよせられる。	郷土作家の作品や優れた作家の作品を紹介する展覧会を開催する。 ①「人間国宝 村山明 木工芸の世界」 ②「あの国風園で繰る昭和・令和の世界」展	全世代	①6月15日～8月4日 ②11月23日～12月8日	年2回	3,060 ①2,217 ②843	14,682	-	入場者数	人	4,644	R4	5,109	4,077	3,060	①助成金獲得(ワークショップ) ・市報 ・財団HP ・新聞申込 ・チラシ等 ・情報誌、タウ ・インテリネット ・媒体掲載	-	①人間国宝であり尼崎出身の芸術家の展覧会を実施し、上質な文化芸術に親しんでもらえる企画であった。 ②尼崎市所蔵の風景画作品と新たに制作された作品を展示し、歴史の移り変わりを楽しくも楽しんでもらえた。	美術展の開催に必要な財源の確保が年々厳しくなっている中、助成金、協賛金等による財源確保に努め、事業規模を確保する。また、他機関との協働などにより企画内容を工夫して内容の充実を図る。	本市の特色を生かした企画展、市民に身近な美術を紹介することを目的とした魅力ある企画展の開催に努め、入場者に満足してもらうとともに、入場料の確保に努める。 引き続き自助努力による財源確保、PR方法の工夫により集客増を図る。	-			
9	新人お笑い尼崎大賞	文化特命担当(総文補助)	若い人の夢とチャレンジを応援する	平成12年度	尼崎から21世紀に広く全国に羽ばたく芸能人を発掘かつ育成し、このまちの文化の発展と向上に寄与することを目的とする。	尼崎から21世紀に広く全国に羽ばたく芸能人を発掘かつ育成するため、コンクールを開催する。	全世代	8月3日～9月15日	年1回	1,075名(落語55名、漫才・コント等の部203組/370名)	2,345	-	エントリー数	組	1,130	R4	834	483	1,075	協賛団体の新規確保、入場料徴収 ・市報 ・財団HP ・チラシ	-	県助成金を得て財源を確保した。	協賛金の減に伴い、取支均等を図るべく、外部経費の減や入場料徴収など工夫しながら事業展開を行った。エントリー数の減などが見受けられるが、新しい顔ぶれが毎年見られることから、この事業が広く浸透している表れだと考える。 今年については県助成金を得ることができ、財源を確保できた。	事業実施に必要な財源の確保及び周知方法	若い方への参加呼びかけと財源を確保する必要がある。	-		
10	尼崎城新能	文化振興担当	育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	令和元年度	能楽を身近でかつ、気軽に鑑賞できる機会を提供することにより、日本の伝統芸術への関心を高揚し、市民文化の振興を図る。	平成31年3月29日に一般公開された尼崎城において、野外舞台を特設し、中秋の名月である9月13日に「尼崎城新能」として開催した。	全世代	9月13日	1回	1,200	4,494	1,973	参加者数	人	1,000	R1	-	-	1,200	文化庁文化芸術創造拠点形成事業 ・あまらぶFB ・市報 ・プレスリリース ・チラシ ・ポスター ・Twitter ・機 ・電車 車内吊り	-	-	A	参加者数、内容共に条件を満たしているため	今後の実施や資金について	長年親しまれている「尼崎新能」「富松新能」上の共存について、方向性を決めていかなければならない	-	
11	尼崎新能・富松新能	文化特命担当(総文補助)	育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	昭和55年度(富松は平成8年度から補助)	能楽を身近でかつ、気軽に鑑賞できる機会を提供することにより、日本の伝統芸術への関心を高揚し、市民文化の振興を図る。	尼崎新能: 能楽「産声」 富松新能: 能楽「羽衣」、狂言「蝸牛」	全世代	(尼崎) 5月20日 雨天中止 (富松) 7月26日	各年1回	800	4,053	-	入場者数	人	各800計1,600	R4	(尼崎) 800 (富松) 700	(尼崎) 900 (富松) 500	(尼崎) - (富松) 800	協賛金 ・市報 ・コミュニティ ・チラシ ・財団HP ・ポスター ・Twitter ・機	地元市民との協力	-	(尼崎) 雨天により中止 (富松) 参加人数が評価指数を達成することが出来たほか、地元で公演し、存続化の継承・発展に寄与することが出来た。	出演者の高齢化	引き続き伝統文化に対する関心を高め、市民文化の振興を図る。	-		
-	文楽・歌舞伎公演	文化特命担当(総文補助)	育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	昭和61年度	伝統芸能である人形浄瑠璃、歌舞伎を通して近松素庵への理解を深める。	文楽公演 昼の部: 生写朝顔話(明石船別れの段、美しい葉の段、宿屋の段、大井川の段) 夜の部: ひらかな盛衰記(松右衛門内の段、夜霧の段) 日高川入相花王(渡し場の段) 文楽・歌舞伎は1年毎に開催	小学生以上	公演中止	年1回	-	2,336	-	入場者数	人	(文楽) 750 (歌舞伎) 1,900	R4	(文楽) 703 (歌舞伎) 1,734	-	-	・市報 ・財団HP ・掲示板 ・ポスター、チラシの配布 ・新聞広告	-	-	-	コロナウイルス感染拡大防止のため公演中止。	-	-	-	
12	近松祭	文化特命担当(総文補助)	育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	昭和11年度	近松門左衛門の功績を顕彰する事を目的として、近松記念館で近松素庵テーマとする演奏等の行事を行う。	人形浄瑠璃、浪曲、人形劇、落語、踊りなど近松門左衛門ゆかりの演奏等上演する。	全世代	10月25日	年1回	510	1,347	-	参加人数	人	600	R4	400	500	510	協賛金 市報・財団HP・掲示板・緊急治療ポスター・チラシ	地元市民との協力	実行委員会で検討 地元協力	観覧数も会場一様で見もてるほどであった。	大近松祭実行委員会役員の高齢化と300年祭の内容準備	若い方への参加呼びかけと財源確保	100%		

令和元年度文化関連事業個別評価表

事業名称	課名	取組の柱	事業概要										経費				評価指標			実績			実施に当たり工夫したこと				所管課評価			アンケート
			事業開始年度	目的	実施内容	対象世代(趣向)	実施期間	実施回数(回)	参加人数(人)	R1事業費(単位:千円)	事業に係る人件費(単位:千円)	指標名	単位	目標	達成年度	H29	H30	R1	財源獲得の努力	広報	協働	改善点等に対する取組	評価	評価の理由	課題	今後の方向性	満足と答えた人の割合			
13	近松ナウ	文化特命担当(総文補助)	育ててきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	昭和61年度	市制70周年(1986年)を契機に、「近松のまち・あまがさき」を目指して、多彩な文化事業を展開。その一環として「近松を現代に伝える」をコンセプトとして実施。	近松の世界を現代に繋げよう、近松をテーマにした各種の催しをテーマでPRすることにより多くの方に観賞、ご参加いただけるように努めている。	全世代	令和元年9月～令和2年3月	17	60,045	1,375	-	事業本数	事業	21	R4	15	18	17	-	・市報 ・財団HP ・チラシ	民間の協賛団体の確保に努めている	市内外へ向けた近松の情報発信のため、近松市街にゆかりのある地域への全国的なPRを行った。	C	目標指標としている事業数は目標値に達しなかった。	協賛団体確保のため、PR方法に工夫が必要と思われる。	本事業を通して、「近松のまち・あまがさき」のPRを強化する。	-		
14	市展	文化特命担当(総文補助)	市民の芸術体験を支える	平成23年度	日頃より芸術文化に関心を持っている市民に成果発表の機会を提供し、市民の創作意欲の向上と芸術文化に対する意識の高揚を図る。	洋画、日本画、彫刻、立体、工芸、写真、書の内容を一般公募し、入選・入賞作品を一般公開する。	全世代	10月5日～13日	年1回	(参加)252 (入場者)1,497	4,325	-	参加者数、入場者数	人	(参加)265 (入場者)1,721	R4	(参加)261 (入場者)1,512	(参加)247 (入場者)1,583	(参加)252 (入場者)1,497	-	・市報 ・財団HP ・チラシ	-	PR先を拡充した	C	PR先を拡充したが、結果にPR方法は工夫することで、若者層が参加しやすい条件に見直し、利用団体を増やす工夫をしていく。	若者層が参加しやすい条件に見直し、利用団体を増やす工夫をしていく。	-			
15	ふれあいギャラリー	文化特命担当(総文補助)	市民の芸術体験を支える	平成10年度ごろ	市内で地域に根ざした活発な創作活動を展開している文化団体に対し、発表の場を提供し、市民文化の振興を図る。	市内で創作活動している団体が、順次、グループ発表会を開催する。	全世代	(前期)7月10日～9月23日 (後期)1月24日～3月9日	年2回(13)	2,474	1,986	-	参加団体数	クール(週)	14	R4	15	16	13	-	・市報 ・財団HP ・チラシ	-	チラシのデザインを思い、観てほしい事業としてPRに努めた。	B	当初は、目標の参加団体数を達成することができていたが、新型コロナウイルス感染症防止のため利用できなくなったため、結果として目標は未達成となった。	応募団体の構成人数減や高齢化の影響等で参加団体を増やすことが難しくなっている。	市民団体が参加しやすい条件に見直し、利用団体を増やす工夫をしていく。	-		
16	文芸祭	文化特命担当(総文補助)	市民の芸術体験を支える	平成21年度から移管	市民の文芸活動への参加を促進するとともに、作品研究会を通して文芸の振興と交流を図る。	広く川柳・短歌・俳句の文芸作品を募集し、優秀な作品は文芸作品展に掲載するとともに、文芸祭大会で、作品の研究会を行う。	全世代	6月1日～7月12日	年1回	1,385	3,597	-	応募作品数	件	1,320	R4	1,327	1,320	1,385	-	・市報 ・財団HP ・リーフレット	-	リーフレットのデザインを親しみやすいものにし、幅広い年齢層に受け入れられる工夫を怠らない。	B	応募者数が前年度よりも増加していることなどがわかる。	若年層の参加を増やすために、学習カリキュラムで取り扱う時期に、実施時期を変更する工夫をしている。	若年層及び市内の応募者を増やすために、市内小中学校や老人福祉施設等に団体応募を誘う工夫をしていく。	-		
17	演劇祭	文化特命担当(総文補助)	市民の芸術体験を支える 若い人の夢とチャレンジを応援する	昭和26年度	演劇団体に発表の場を提供し、一堂に集まることにより相互交流と研鑽を図り、演劇を通じて文化の向上を図る。	尼崎市舞台芸術協会による演劇発表会を実施する。	全世代	令和2年2月8日、9日	年1回	469	924	-	出演団体数	団体	8	R4	8	7	7	-	・チラシ ・HP ・市報	各出演団体によるPR	若い人が参加できるような環境づくりのようにつとめて、観客やパトロールの作業を学生とともにし、舞台裏の仕事にも興味をもってもらおうことができた。	B	尼崎市舞台芸術協会の協力により、演劇祭OG・OBの参加が、社会人劇団のコラボ参加など新たな工夫がみられたが、目標団体数は届かなかった。	初来場者と初参加者の割合が高く、若いファンが増え、評価するうえで不安定な事業である。	「演劇祭」のファンを増やし、来場者と参加者のリピーター率を上げる。	-		
18	アウトリーチ事業	文化特命担当(総文補助)	市民の芸術体験を支える	平成24年度	市内の子どもたちが芸術を肌で体験・体感できる場を提供する。美術部門では、身体を使った創作の楽しさを体感する場を提供する。	尼崎市が誇るアクション・ペインター白壁一雄氏の画業を紹介しながら、その独創的な技法を体験してもらおう。	全世代(小学校高学年児童生徒中心)	7月2日 7月9日 7月10日 8月20日 9月9日 9月10日 10月15日	7箇所(13回)	391	2,392	-	実施箇所	箇所(学校・園・公共施設等)	6	R4	6箇所(10回)	9箇所(19回)	7箇所(13回)	助成金獲得	・小学校長会 ・小学校造形教育研究会	-	大人向けのレクチャー講座を生産学習プラザで実施し、新たな活動に追加した。	B	例年実施している学校以外にも参加いただけようよう工夫を検討し、市内公共施設などにも活動の場を広げ参加体験する機会を拡げていく。	子ども対象の実技プログラムを展開しているが、大人向けのレクチャーのみのプログラムも展開していく。	-			
19	文化教室事業	尼崎市文化振興財団	市民の芸術体験を支える	昭和49年度	開館以来、市民ニーズに応えながら幅広い各種講座を運営し、学習・創作・実践の場を提供する。	洋舞・邦舞コースをはじめとし、音楽、美術から文学や教育に至る多岐の講座を開講している。	全世代	通年	8コース78講座	771	13,812	-	受講者数	人	800	R4	1,136	1,118	771	-	・市報 ・財団HP ・新聞折込 ・市内掲示板 ・チラシ(館内及び近隣施設)	あまがさき観光局	-	C	夏休み講座PRのため、児童生徒に配付したチラシは好評であった。また、文化教室の廃止を考えると教養講座の増加は望ましいので、新たにあまがさき観光局との共同事業として、出張講座を実施した。	短期講座の受講者は増えたものの全体では減少していった。夏休み以外でも短期講座の実施にあたっては、幅広い年代に届くような広報を実施していく。	常設講座における一定の受講者数は確保しつつ、市内各所での出張講座の展開を図っていく。	-		
20	ホール事業(補助対象の自主事業)	尼崎市文化振興財団	市民の芸術体験を支える	昭和57年度	尼崎市民の文化の向上	オペラ、バレエ、クラシック、お笑いなど幅広いジャンルでの事業を実施。また、子ども向けの事業も行ってきている。	全世代	年36回	-	23,979	37,984	-	参加人数	人	29,915	R4	18,236	17,000	23,979	助成金獲得	・市報 ・財団HP ・掲示板 ・ポスター、チラシの配布 ・新聞広告 ・団体協賛	-	-	B	目標指標の参加人数は概ね達成している。	効果的な宣伝媒体の開拓	幅広い年齢層に向けた事業展開を行う。	89%		

令和元年度文化関連事業個別評価表

事業名称	課名	取組の柱	事業概要						経費		評価指標			実績			実施に当たり工夫したこと					所管課評価		アンケート				
			事業開始年度	目的	実施内容	対象世代(種別)	実施期間	実施回数(回)	参加人数(人)	R1事業費(単位:千円)	事業に係る人員費(単位:千円)	指標名	単位	目標	達成年度	H29	H30	R1	財源獲得の努力	広報	協働	改善点等に対する取組	評価		評価の理由	課題	今後の方向性	満足と答えたい人の割合
21	あまがさき歴史音楽祭	観光振興課	育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	平成27年度	歴史的建造物に触れ音楽を通して、市のイメージアップや地域への愛着・誇り・シビックプライドの醸成を目指している。	「歴史的建造物で音楽を楽しむ」をテーマに、市内外のミュージシャンによって編成し、定期演奏の開催。他、地域のイベントにも多数出演している。	全世代	10月20日	年1回	600	—	66	来場者数	人	500	R1	400	1,800	600	企業寄付金 ・市報 ・市HP ・FB ・チラシ	実行委員会による運営	—	B	これまで開催場所であった文化財収蔵庫が改修中であること、尼崎城が一般公開したこと、尼崎城が一階で開催。城下町フェスティバルの一環としてイベントとも連携強化、尼崎城への優待誘客も図った。出演者に若いミュージシャンが多かったことから、歴史への興味が比較的薄い層にも尼崎城を知っていただく良い機会となった。複数会場での開催ができなかったこと、関係者と今後一層の連携を図っていく課題が残ったことなどから左記の評価とした。なお、地域にお住まいの方についても当イベントのファンが増えており、多数の方から声掛けいただいた。	複数会場で開催し地域の魅力を発信し、より市のイメージアップや地域への愛着・誇り・シビックプライドの醸成を目指す。	令和2年10月にオープンする歴史博物館周辺を含め、音楽とともに地域の魅力を発信し、より市のイメージアップや地域への愛着・誇り・シビックプライドの醸成を目指す。	90%	
22	少年音楽隊事業	青少年課	若い人の夢とチャレンジを応援する	昭和37年度	豊かな情操と健やかな心を育むとともに、本市の音楽文化の向上に寄与する。	合唱隊、吹奏楽隊、ハルモニ、トラベッツ隊、ドラム隊の5隊で編成し、定期演奏の開催。他、地域のイベントにも多数出演している。	青少年(小学校5-6年生等)	通年	—	257(R1隊員数)	2,585	11,023	隊員数	人	270	R3	250	240	257	楽器の寄付を毎週行っており、公開による楽器購入は行っていない	・市報 ・市HP ・チラシ(市内小学校、公共施設等) ・ポスター ・小学校校長会	—	—	B	隊員数は近年、減少傾向であったが、令和元年度末の隊員数は257人を数え、目標水準に概ね到達している。(達成率%)少年音楽隊は、保護者以外の地域の高齢者など、多様な世代の活動を促し、若少年の健全育成が図られるとともに、隊の認知度も上がり、隊員数の増加もつながっているものと考えている。	ひと吹きプラザに移転したことに加え、複数隊が練習拠点を開設したこと、引き続き良好な練習環境を整えるとともに、移転を機に隊員数が減少する懸念もあつたこと、隊員の増加を図ること。	当該事業は、隊員の保護者や教育委員会との密接な連携が不可欠であり、今後こうした主体と連携を図りながら事業を推進していく。	—
23	育み・育ち・つなぐ音楽のまち尼崎事業	学校教育課	市民の芸術体験を支える	平成28年度	児童生徒による多彩な音楽活動を通して、子ども達を育み、大人も持ち、市民としての志と誇りを持つてちや未来につながるまちづくりを推進する。	あましんアルカイックホールで小・中・高児童生徒が演奏をコンサートを実施する。	小・中・高等学校の児童生徒・保護者一般	11月1日	1回	約1,300人	3,993	773	入場者数	人	1,082	R1	—	1,376	1,189	—	・市報あまがさき ・あまナビ ・教育総合センターHP ・FMあまがさき「市政広報ラジオ番組」	協働推進員制度と市政広報協力事業所	—	A	・昨年度までは小学校音楽会と合同開催で行っていたが、昨年度から3校種の児童生徒が一堂に会する形式になったため、評価指標を産廃利用場に変更した。保護者以外の地域の高齢者など、多様な世代の活動を促し、若少年の健全育成が図られるとともに、隊の認知度も上がり、隊員数の増加もつながっているものと考えている。	・2階席(468席)も開放するなど、更なる広報活動が必要となる。 ・参加者の交通手段を確保するが難しい。	・令和2年度の実施については「ボランティアの募集もまふえ、実施の可否について検討する必要がある。	(実施できなかった理由:1昨年度までと異なる開催形態に変更するにあたり、参加者の属性を分析するための質問項目を優先したため)
24	田能遺跡サポーター養成事業	歴史博物館	育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	平成28年度	「田能遺跡サポーター」養成講座を実施し、その知識をもとにボランティアとして、復元住居の修復及び事業のサポート等を行う。「田能遺跡サポーター」を養成し、協働の取組を推進する。	・田能資料館で実施する古代のくらし体験学習会等の体験学習事業を共同で開催 ・小学校等団体見学の際のサポート ・田能遺跡出土遺物の再整理の協力	全世代	通年	116	219	200	1,533	参加の人数	人	300	R4	195	125	219	—	・市報 ・市HP ・チラシ	—	—	C	事業内容の改善に取り組んだことにより、参加人数は前年度より増加し、取組の柱となつた事業展開が実施できた。	ボランティア参加者が意欲的に取り組むことができるような活動内容を実施していく必要がある。	ボランティアが円滑に活動に参加できるように参加形態の検討や支援体制の整備が必要である。	—
25	特別展・企画展事業	歴史博物館	育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	特別展:昭和46年度 企画展:平成15年度	〈特別展〉日本文化の源流とも言える弥生文化に焦点をあて、各地域の代表的な出土品を展示し、田能遺跡との関連性について考察する。弥生時代の人々の生活や技術・文化の発展を探り、弥生文化の重要性について認知を高めることにより、文化財保護への関心を高める。 〈企画展〉田能遺跡にみられる弥生時代を調査・展示することにより弥生文化に対する理解を高める。	(特別展)「どくろちゃん」 (前期企画展)「弥生時代のくらし」 (後期企画展)「田能資料館のトリセツ」	全世代	(特別展)10月6日～12月15日 (前期企画展)5月1日～9月1日 (後期企画展)2月4日～3月29日	特別展1回 企画展2回	25,261	710	3,747	観覧者数	人	28,000	R4	28,782	23,294	25,261	—	・市報 ・市HP ・ポスター ・チラシ ・あまナビ ・ヤフー!ブログ ・あまナビ ・まるごとアマガサキ ・KissPress ・あにあん倶楽部 ・市FB ・東園田町会報	後期企画展をボランティアグループとの共催で開催	—	B	ホームページの掲載などを通じて積極的に広報活動に努めていることとあり、目標指標には達しなかったが、観覧者数が前年度より増加しており、文化財への関心を高めることができた。	田能遺跡の魅力発信につながる内容の展示企画の検討と、令和2年7月の開館50周年に向けた特別展の開催準備を進める必要がある。	田能遺跡の資料を再整理し、資料の新たな発見や再評価と、それをもとに市内外・史料館の収蔵資料の公開、活用を図る工夫を継続する。	—
26	古代のくらし体験学習事業	歴史博物館	育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	昭和46年度	出土遺物の収蔵・展示による文化財の啓蒙にとどまらず、弥生文化をより身近なものとして理解し、その魅力を体験できる事業を展開する。弥生時代の人々の生活や技術・文化の発展に対する認識を高め、市民の歴史学習を支援するとともに、文化財に対する関心を高める。	・勾玉をつくらう(3回) ・石の職をつくってとばそう!(1回) ・網刻をつくらう(2日間) ・弥生土器をつくらう(2日間) ・コールドフォーカクわ(体験2日間) ・西暦弥生体験めぐり	全世代	通年	11回	224	122	1,666	参加者数	人	300	R4	333	179	224	—	・市報 ・市HP ・ポスター ・チラシ ・あまナビ ・まるごとアマガサキ ・サテ(リ)ビング ・KissPress ・市FB、LINE	市民ボランティアグループとの共催事業として実施	—	C	事業実施回数は減ったものの、広域活動は教育協賛を拡充させたこともあり、目標指標は達成した。参加者数の総計は前年度より増加しており、市民の歴史学習の支援に貢献することができた。	市内唯一の国指定史跡のサイトニュースラムである田能資料館の開催以来、長年にわたり開催されてきた古代のくらしを学ぶ体験学習事業と、継続的に実施していくことができるよう検討していく必要がある。	学習メニューの効率的な運営の検討や市民ボランティアとの連携の強化に取り組むことと、事業ない世の開催や充実に取り組んでいく。	—
27	文化財収蔵庫企画展示事業	歴史博物館	育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	平成26年度	文化財収蔵庫が所蔵する貴重な資料を市民や子供たちが本市の歴史や文化財に関心を持つとともに、本市のシティプロモーションにも貢献する。	文化財収蔵庫が所蔵する資料を活用した企画展を、尼崎市総合文化センター美術ホールで開催する。	全世代	5月16日～6月2日	年1回	929	846	1,801	展示観覧者数	人	20,000	R4	11,836	5,919	929	—	・市報 ・市HP ・ポスター ・チラシ ・朝日新聞	—	—	C	評価指標は新博物館開館後を想定し高めに設定しており、加えて文化財収蔵庫は事業中のため総合文化センター美術ホールでの18日間だけの開催となったため、指標に対する達成率は低目に止まっているが、アンケート調査結果は良好で収蔵資料を広く公開するという取組の柱に沿った事業は実施でき、加えて新聞にも取り上げられ、本市のシティプロモーションに貢献できているため。	令和2年度には文化財収蔵庫をリニューアルした歴史博物館が開館することにより、歴史博物館の企画展として収蔵資料を広く展示公開できるようにしていく必要がある。	令和2年度に歴史博物館がオープンするので、歴史博物館ではさらに充実した展示活動を実施していく。	100%

令和元年度文化関連事業個別評価表

事業名称	課名	取組の柱	事業概要								経費		評価指標				実績			実施に当たり工夫したこと					所管課評価		アンケート	
			事業開始年度	目的	実施内容	対象世代(種向け)	実施期間	実施回数(回)	参加人数(人)	R1事業費(単位:千円)	事業に係る人件費(単位:千円)	指標名	単位	目標	達成年度	H29	H30	R1	財源獲得の努力	広報	協働	改善点等に対する取組	評価	評価の理由	課題	今後の方向性		満足と答えた人の割合
28	歴史遺産を活かしたまちの魅力再発見事業	歴史博物館	育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	平成26年度	まちづくりの核となる歴史遺産を活かし、市民との協働のまちづくりを展開し、情報発信することで、市民の地域への愛着を醸成し、尼崎の魅力を高める。	富松城跡の保存・活用を市民と協働で進めるとともに、富松城跡の歴史的価値や歴史遺産としての活用方策等を市民と共に考えるためのイベント等を開催する。	全世代	9月28日	年1回	72	40	1,950	事業参加者数	人	100	R4	0	69	72	-	・市報 ・市HP ・歴史街道ハフレット ・毎日新聞	富松城跡を活かすまちづくり委員会と連携し、その協力も得て実施した。	-	C	本年度のウォーキングイベントの参加者数は前年度から微増となった。富松城跡の保存と活用を市民と共に進め、歴史遺産としての価値を多くの方々を知っていただくという取組の柱に沿った事業も実施できているため。	富松城跡の歴史的・文化的価値を広く市内外に発信に努めるとともに、富松城跡の保存・活用方策の検討を市民とともに進め、地域資源としてまちづくりに活用していく必要がある。	これまでは、富松城跡を広く周知するための単発的の事業を行ってきた。今後は、地域住民や学校との連携を更に深め、富松城跡を地域資源として保存・活用していくための取組を進める。	-
29	わくわく体験ミュージアム事業	歴史博物館	育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	平成13年度	地域の歴史に関わる各種体験学習活動をはじめる教育普及事業を、市民との協働で行うことにより、市民や児童生徒が本市の歴史・文化財に関心をもち、地域に根ざした文化活動の促進に貢献する。	・市民向けの歴史講座の開催 ・学校教育と連携した児童生徒向けの歴史に関する学習会の開催 ・体験を主とする夏休みの学習会の開催 ・学芸員と協働で体験学習活動を行う市民ボランティア養成	全世代	通年	100回	3,057	36	3,681	事業参加者数	人	4,500	R4	3,780	3,059	3,057	-	・市報 ・市HP ・ポスター ・チラシ	一部事業は、れきし体験学習ボランティアと協働で実施している。	-	C	文化財収蔵庫が通年で休館となったことにより参加者数は微減となったが、市民や児童生徒を対象とした多彩な学習活動や学校教育と連携した各種学習活動、さらには市民ボランティアとの協働による事業実施という取組の柱に沿った事業が実施できているため。	令和2年度には文化財収蔵庫をリニューアルした歴史博物館が開館するので、歴史博物館の教育普及事業として新たな展開を構築していく必要がある。	博物館にとっては、展示と並んで重要な事業であり、直接、市民や児童生徒と繋がっている事業でもある。加えて、歴史博物館では教育普及事業を行う施設・設備が充実することから、本事業はより多彩で、より市民・児童生徒の学習意欲やニーズに応えた内容へと高めていく。	-
30	歴史資料公開活用事業	歴史博物館	育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	平成17年度	教育委員会が行ってきた歴史資料等の収集の成果を市民に還元し、本市が歴史豊かな文化都市であることをPRし、本市のイメージアップに貢献する。	文化財収蔵庫が所蔵する歴史資料・美術工芸資料等を活用した展示会を、尼信会館3階展示室を借用して開催する。	全世代	10月5日～11月10日	年1回	2,190	448	3,880	展示観覧者数	人	1,500	R1	885	2,390	2,190	-	・市報 ・市HP ・ポスター ・チラシ ・朝日新聞 ・神戸新聞	-	-	A	観覧者数は前年度に引き続き堅調に推移し、アンケート調査結果も良好であった。また、文化財収蔵庫では展示できない美術工芸資料等を広く公開するという取組の柱に沿った事業も実施できているため。	令和2年度には文化財収蔵庫をリニューアルした歴史博物館が開館するので、歴史博物館の企画展として収蔵資料を広く展示公開できるようにしていく必要がある。	令和2年度に歴史博物館がオープンするので、尼信会館での展示会は令和元年度で終了し、歴史博物館ではさらに充実した展示活動を実施していく。	100%
31	新博物館開館準備事業	歴史博物館	育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	平成31年度	文化財収蔵庫をリニューアルした歴史博物館が令和2年度に開催することから、開館に向けて市民に歴史博物館をPRする。	歴史博物館を市民にPRするため講座やシンポジウムを開催する。	全世代	4月10日～11月13日	年7回	763	1,166	940	事業参加者数	人	500	R1	-	-	763	-	・市報 ・市HP ・ポスター ・チラシ ・神戸新聞 ・神戸新聞 ・産経新聞	-	-	A	シンポジウム1回、講座6回を行い多数の市民の参加を得ると共に、「尼崎城研究資料集」の発行については多数のマスコミにより報道されたことにより、市民に歴史博物館をPRする目的を達したと考えるため。	令和2年度上半期にも歴史博物館をPRしている中で、さらに市民へのPRを進める必要がある。	令和2年度上半期にも新歴史博物館のPRを積極的に行い、歴史博物館開館への機運を盛り上げていく。	100%